

竹取新聞

発行所
株式会社 カグヤ



第172版

理念と実践で
絆を結びます

平素より弊社の商品をご愛顧頂きましてありがとうございます。この新聞は、「子ども第一義」の理念のもとに活動しているカグヤクルーの日々の出来事・内省を発信することで、皆様の保育に少しでもお役に立てればと始めたものです。記事中はそのまま実践を表現することを優先し、乱筆乱文で恐れ入りますが、何卒ご容赦くださいますようお願いいたします。

カグヤクルーブログも
毎日元気に配信中！

カグヤウェブサイト



www.caguya.co.jp

「聴福庵」の情報はFacebookで
f 神家総本家 聴福庵

余韻を味わう

9月末に実施した「ミマモリングアドバンス」では、4園の先生方に実践発表をして頂きました。今回は、実践発表当日まで迎えるまでのやり取りや、実践発表園とのみ行っている、打ち上げについてご紹介したいと思います。

以前はセミナー終了後に園ごとにお礼の連絡をしていましたが、発表園の皆さん全員で余韻を味わいたいと、打ち上げをすることにしました。

打ち上げでは発表者だけの空間になるため、緊張から解放されて安心した表情をされたり、清々しい面持ちだったり、表情は様々です。先生方には準備過程や発表を終えての率直な感想をお話しいただいていますが、ある先生がアドバンスセミナーのことを「1冊の本を読んだような学びがあった」と表現してくださいました。打ち上げを始めたことで、私たちだけでなく発表者全員でそのような感想を共有することができ、余韻を味わえる時間となりました。

オンラインセミナーの特性上、普段はミュートでご参加



実践発表中とはまた異なった柔らかな雰囲気の中で、打ち上げを行っています！

頂いており、発表園の先生方とはリハールではじめてお話をさせて頂くケースがほとんどです。そのため、園に就職した理由や、どんな想いを抱いて保育をしているかなど、発表して頂く先生の人となりをお伺いすることも大切にしています。

そしてセミナー本番の発表園紹介では、発表内容だけではなく、お伺いした人となりや保育への熱量を参加者へお伝えできるよう、こちらの司会進行にも熱が入ります。

打ち上げは、私たちカグヤにとっても先生方と一緒に振り返れたり、やり切りましたね！と一緒に喜び合える時間でもあります。先生方と一緒に喜び合える場づくりを、今後もセミナーの中で大切にしていきたいと思っています。

(奥山卓矢)

声なしの環境設定

「見守る保育 藤森メソッド」
第57回保育環境セミナー
子ども主体編の実践発表では、各園での子どもの主体性を育む取り組みや環境設定について発表がありました。

その発表の中で、保育者が子どもたちに毎回掛けをしなくても子どもたちが主体的に動ける「声なしの環境」を設定しているという内容が印象的でした。具体的には、食事の正しい姿勢が目で見分かるよう写真で掲示したり、机を拭くぞうきんと床を拭くぞうきんの違いも写真で掲示し、子どもたちが自ら使い分けられることができるようにしたり、といった工夫です。



声かけより大切なこと。主体性を育むための大切な実践です。

社内での振り返りでは、こういった工夫は私たちのセミナー運営にも取り入れられるのでは？という意見がありました。そこで早速、私達がスタッフだと一目で分かるよう自社Tシャツを着る工夫を試してみました。

また、次回以降のセミナーにも目で見分ける案内を取り入れることにしています。例えば受付後はどの机に着席

したら良いのか、お弁当の空き箱の捨て方や、スツケー置き場の案内など…。多数の参加者に声掛けで一つひとつお伝えすることが丁寧な案内ではなく、聞き逃してしまっても目で見分けるような案内を準備しておくことが丁寧な案内ではないかと、「子ども主体」の実践発表を聞き、学ばせていただきました。

こちらの新聞が皆様のお手元に届く頃には、11月開催のセミナーで声なしの案内を実践してみた頃になります。実践してみた結果は改めてこちらの誌面でお伝えできたらと思っています。(真田由莉)

SNSの意義

先日、お客様より「ホームページ(以下HP)」というのは天から垂れてくる蜘蛛の糸を待ち続けるようなもの」という言葉をお聞きしました。HPは自分たちのページにアクセスしてもらわなければ情報が伝わらないため、検索に引っかけやすい対策はもちろんです。基本的には「待ち」の仕組みです。そのデメリットはありますが、来てもらえれば皆さんの情報を伝えることができる重要な役割です。

そして今はこのデメリットを補完する役割としてSNSが主流になってきています。SNSは投稿すると利用者情報に配信される仕組みのため、「広報」の役割を担いやすい「攻め」の仕組みです。

また、自分の配信だけでなく、他園から配信された情報も届くため、お互いに学び合うことができることも大きな特徴です。お互いをフォロー(お気に入り登録のようなもの)することで、その学びの輪が広がっていくのも特徴的です。

芥川龍之介の小説「蜘蛛の

糸」では、自分に続いて蜘蛛の糸を登ってくる他者を見て、自分だけが助かればいけないと思ったことにより自分を持っていた箇所から糸が切れてしまいます。これには「自分だけが利益を得ようとする」と損をする」という教えがあると思います。どうもこのあたりの文脈と「HPとSNS」が繋がりそうだと感じます。

他園、保護者、求職者、養成校、大学、地域がお互いに繋がり、情報を共有し合い、学び合うことの大切さを伝えてくれているように感じるので。

そういう意味では「広報」としてのSNSと、深く伝えるためのHPの両輪をうまく整えることはもちろん重要ですが、それ以上に重要なこととして、これからは運用の基礎理念に「絆や繋がりを」を持つ必要があるように思います。繋がりが合い、育ち合い、学び合うような場づくりは誰にも必要なこと。そんな大切なことをお客様の一言から教えて頂きました。(真田海)

カグヤでは、それぞれが別々の場所においても、お互いの気持ちや様子をクルー同士はもちろん、皆様とも共有できるよう、毎日、ホームページでブログ配信しています。ここではその一部を抜粋して、日々の実践をご紹介します。

秋のお月見

今年の秋は8月の十五夜と9月の十三夜に「月見祭」を行いました。



福岡県飯塚市にある「徳積堂」にて



秋の夜長にピッタリな音楽ライブ。皆様と一緒にしっとり楽しませて頂きました♪

中秋の名月（十五夜）は有名ですが、それから約1カ月後に巡ってくる十三夜のお月見も昔から大切にされてきたそうです。平安時代は、月を眺めながらお酒を嗜んだり、歌を詠んだり、管弦楽を楽しんだりして貴族の間でお月見をし、それが江戸時代頃には、庶民に親しまれ「収穫祭」や「初穂祭」として月に感謝するようになったといえます。

そんな風に月を楽しんでいた時代と比べると、暗くなると当たり前のように電気をつけ、毎日月あかりを気にすることは少なくなったのかも知れません。

それでも、子どもたちとお団子をつくったり、今でもお月見の行事を



月夜の下、おいしいお料理と共に、それぞれからお月様にまつわる話などを聴かせて頂きました！

されている園は多いかと思えます。

そんな皆さんの実践から、「私たちも古きから学び、私たちなりのお月見を復活させよう！」という思いで行われた月見祭。収穫された旬のお野菜など炭火でおいしくいただいたり、皆さんと近くの池周りを散歩しながらお月見をしたり、一緒に音楽を味わったりと、まさに一期一会な至福の時間を過ごさせて頂きました。

例えば、これまで春のお花見はけっこう楽しんできましたが、秋のお月見をこんな風に堪能したのは初めてのことだったかもしれません。

古くから続く風習の一つでもあるお月見。先人に思いを馳せながら、お月様をはじめ自然の恵みや健康、心繋がる豊かな場への感謝と共に、日本文化や風情が味わえる豊かさを実感するからこそ、子どもたちにも繋いでいきたい行事だと改めて感じています。
(宮前奈々子)



【お月見の室礼】
9月号でもご紹介したとおり、今年は千葉と福岡の田んぼで収穫できたお米と一緒にお供えすることができました。

一期一会庵

先人とお月見を味わう

先日は仲間たちと共に中秋の名月をみんな味わい豊かなお時間を過ごすことができました。池をみんな散歩しながら月を眺めましたが、水面に移る月をはじめ、月光を浴びるスキ、そのほかの植物たちと反射あつて幻想的な姿でした。

今とは違い、縄文時代の人たちやまだ電気などがなかった時代、夜というのはどう感じていたのでしょうか。そしてその中にある月をどう観ていたのか。朝、太陽が出て拝み一日がはじまるように夜は静かに月を待つって拝んでいたのではないのでしょうか。同じ姿形であってもきつと現代とは、まったく異なる見え方をしていたように思います。

特に夜の月は観る人の心を映し出すように思います。ある人は大きくと観えたり、またある人は蒼いと観えたり、またある人はウサギがいるように観えたり、人によって観る心境を鏡のように映しだします。千人いれば、千通りの観え方があります。そう考えてみると、人の目は同じものはありません。私たちが太陽や月、そして色などもなく共通したものを見ては同じだろうと認識

していますが、それが本当に全く同じかという怪しいものです。なぜなら、人間の目には非常に微細で通常には感じられないようなものを観ているものもあります。

それに心は、観える世界を変えていきますから同じものであるはずはありません。私たちが中秋の名月を眺めるとき、なぜ美しいと感じるのか。それはその心の中にある、微細なゆらぎを味わう感性と結び合っていることからのように私は感じるので。その証拠に、月を眺めたときに感じるものは色々変化します。音も色も、味も、月をよく眺めたらその感覚が変わっていくのを感じるのです。そしてこの変化こそ、心の中の変化であることがわかります。

私たちは毎日、月を観ても、月は同じことはありません。月も変化し続けているのです。その変化を観ては、自分の心の中に移る観念を変化させていく。そこに無常の喜びや仕合せも、または心の住処もあるように思います。月を観ては、自分の心を見つめるという時間はこの時代でも大切にしていきたいと思いました。残りの人生で中秋の名月をあとどのくらい眺めることができるのか。子どもたちに、暮らしを味わってきた先人たちと同じような生き方や真心を大人のモデルになれるよう伝承していきたいと思えます。
(野見山広明)

編集後記



先日、カグヤの創業時に働いていたという大先輩にお会いする機会がありました。何度も話には聞いていたため、どこか伝説の人に会えたような感動の中、色々話を聴かせて頂きました。カグヤを創って下さった感謝と共に、人が変わりながらその時代その時代を

経てカグヤも続いているんだなあ
と実感するものがありました。
カグヤの一員としても、この時代に生きるものとしても、歴史を繋ぐ一員である意識を大切に、先人や先輩から受けた恩を、次の世代へと送っていかれたらと改めて感じています。
(宮前奈々子)

カグヤは「子ども第一義」の理念を実践し、お客様の発展と自立に貢献していきます



ライトハウス(灯台)
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1-17
東京堂神保町第3ビルディング8階
tel.050-1744-8823
fax.03-3518-6218

カグヤウェブセンター
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1-17
東京堂神保町第3ビルディング8階
tel.03-3518-6217
fax.03-3518-6218

働き方と暮らし方の一致
暮らしフルネスについて

